

音楽研究部研究主題

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な授業づくりと、継続的な学びの実現」
～すべての児童が考え、わかる授業にするために～

1 設定の理由

本校では、8年前から各クラスや学年の担任が音楽の授業を行っている。本校で音楽の授業を初めて行う教員は、自身の音楽授業の体験や経験を頼りにしながら困り感を抱えて指導しているのが現状である。小学校学習指導要領音楽科の目的には、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すとあり、そのためには多様な音楽活動を幅広く体験することが大切である。

そこで、音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な授業や活動、また継続的に取り組める学びを提案していきたい。担任と児童がこのような活動を楽しみながら学びを積み重ねるとともに、既習内容を使って学びを深めることができると考え、本副主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くことができれば、曲にあった歌い方や、楽器の演奏の仕方を工夫することができるだろう。
- (2) 学びや経験を積み重ねていく学習を進めることにより、学年が上がるごとに学びを発展させ、深めることができるだろう。

3 研究内容

○仮説(1)、(2)の手立てが有効かを検証するための授業実践。

- ① 常時活動の導入
- ② 音楽活動での表現の工夫
- ③ 電子黒板の活用
- ④ 学校生活の中において「考える」ことの実践
- ⑤ 職員に向けた「音楽通信」の発行

4 結論

○音楽の授業だけでなく、学校生活の中での様々な場面で「考える」場を設けることで、考える音楽の授業が定着し、思いや意図を持って表現することができるようになった。

○ICT機器を活用することで、曲全体の構成などの特徴が視覚的に捉えやすくなり、それを根拠として、思いや意図をもって表現を工夫する姿が見られた。

○「音楽通信」の発行を通して、学校全体で音楽の授業についての考えを共有することができた。

第四部会 八街市立八街北小学校
清水 真理

1 研究主題

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な授業づくりと、継続的な学びの実現」
～すべての児童が考え、わかる授業にするために～

3 研究副主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

小学校学習指導要領 第2章各教科 第6節 音楽 第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり方について理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

表したい音楽表現をするには必要なものが2つある。1つ目は、どのように表したいかという思いや意図をもつことであり、2つ目は、音楽を表現するための知識や技能である。一人ではできないことや、考えつかないことでも、友達からヒントをもらったり、伝え合ったりすることで、考えを深めることができる。

これを受け、思いや意図をもつ手立てとして、曲想と音楽の構造などとの関わり方について理解できるよう、教科書の楽譜から読み取り考えられるように、楽譜を見ることを習慣化させた。さらに ICT を活用し楽譜を拡大して示し、音楽の構成が視覚的にもわかるようにすることで、それらをもとに児童が自ら考え、思いを伝え合うことができるだろうと、本副主題を設定した。

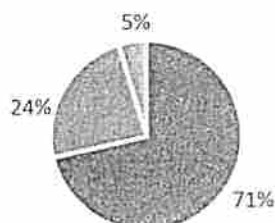
(2) 児童の実態から

本校は八街市の北部にあり、2021年に創立30周年を向かえた。市内では一番歴史の浅い学校である。全校は234人で、本年度から1年生が1学級となり、2年生から6年生は2学級、特別支援学級は本年度1学級増えて3学級で構成されている。住宅地にあり、近年は日本語も英語も話すことができない外国籍の児童の転入も増えている。

本研究を始めるにあたり、事前アンケートを実施した。

3年2組 19名 (男子12名 女子7名)

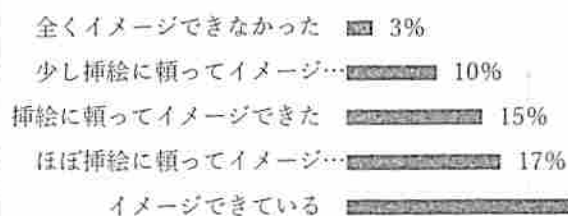
図1. 音楽の授業は好きですか。



好き	・歌うことが好きだから ・楽器が楽しい	71%
どちらかといえば好き		24%
どちらかといえば好きではない		5%

学級の71%の児童が音楽の学習を「好き」と回答している。(図1) 好きな理由では「歌うことが好き」という回答が多かった。

図2. 「春の小川」とは、どのような川だと思いますか。

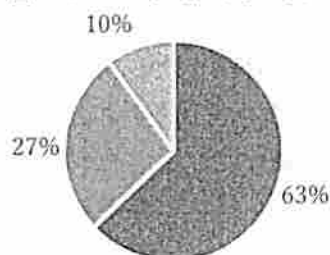


回答例

- ・無回答
- ・魚が泳いでる
- ・横に花が咲いてる
- ・ゆるやかな流れ
- ・水が少しあたたかい

朝の歌や校歌を歌うときでも体を動かして楽しそうに歌っている姿からも、児童が音楽に合わせて積極的に歌うことを楽しんでいる様子が伝わってくる。しかし、音楽の学習で曲のイメージを問われると、想像して考えるというよりも、教科書の挿絵から答えを探す様子が見られた。日常生活において様々な経験の不足から、イメージすることや、思いを言葉で表現することに慣れていないという実態を他の教科でも、強く感じた。(図2)

図3. 曲によって、歌い方を変えていますか。



変えている	63%
変えていない	27%
意識していないのでわからない	10%

曲によって、歌い方(表現の工夫)を変えているか、という問いに対しては、「している」と回答した児童が63%であった。(図3)しかし、「やさしく歌うにはどのように歌えばよいですか」という問いに対しては、「低く歌う」や「ゆっくり歌う」「のぼす感じにする」など技能面に着目した回答が多く、考えや思いを言葉にすることが難しいようだ。

このような実態をふまえ、児童が音楽と言葉を結びつけ、思いや意図をもって学習活動に取り組めるようにすることが必要だと考えた。授業の中で「歌う」「演奏する」という活動だけではなく、音楽的な見方・考え方を働かせて、学習活動に取り組める授業を展開していきたいと考え、本研究を進めることとした。

4 研究仮説

【仮説1】 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くことができれば、曲にあった歌い方や、楽器の演奏の仕方を工夫することができるだろう。

【仮説2】 学びや経験を積み重ねていく学習を進めることにより、学年が上がるごとに学びを発展させ、深めることができるだろう。

5 研究の実際

(1) 仮説1について

手立て1

どのように表現すればよいか思いをもたせるために、楽曲を聴いたり楽譜を見たりして音楽の構造に気付かせ、発問を工夫する。

国語科では、文章から物語の主人公の気持ちや説明文の結果や結論を読み取るように、音楽科でも、楽譜から読み取ることが大切である。

3年生 「春の小川」では、範唱を聴いた後に、歌唱の表現につなげるためにどのような曲かをたずねると、「ゆったりした曲」という意見が多かった。その前に拍の学習は常時活動で行っているため、「春の小川」の速さ♩=120をメトロノームで示すと、「忙しい感じ」「急いでいるみたい」という意見が出た。それではなぜ、ゆったりとした曲に感じるのかと発問したところ、楽譜を見ていた児童の中から、「それぞれの段の初めの歌詞が全て伸びている」という発見があった。「ふじ山」ではどの部分を一番盛り上げて歌いたいかを考えた。「ふじは日本一の山」の部分をあげる児童が多かったので、それはなぜかと問うと、歌詞から「ふじは、と山の名前が出てきているから」という答えや「高い音でのびているから、強調している感じ」という答えが出た。何が日本一なのだろうかという発問に対しては「高さ」や「美しさ」とこたえる児童が多かったので、高さや美しさを表すにはどんな声で歌えばよいかを考え、歌唱の表現に活かすことができた。



「森のこもりうた」では、曲の構成がわかりやすいように、電子黒板に楽譜を映し、色を使って繰り返しの部分があることや、aやa'の部分では休符が多いこと、bの部分では休符が少ないことを確認した。旋律の動きを捉え、1番と2番では歌の背景の時間や「ピラロ ルラ」と歌っている鳥も違う歌詞から、曲の様子にあった歌い方を工夫することができた。その際の発問の仕方でも、子どもたちの理解度が大きく変わってくることを実感した。「歌い方を工夫しよう。」では、何をどうすればよいかわからなかった児童も「どのような声で歌ったらよいだろうか。」と具体的に尋ねると、歌詞や旋律の動きから、「1番は夜の場面だから、曲の山場でも大きくしすぎないで歌いたい。」や「2番は朝の場面だから、声を明るくしたい。」など場面の様子に合った歌い方を考えることができた。また、時間の終わりごとにまとめを書くことで、学んだことを振り返ることができた。

4年生 「エーデルワイス」で音の高低や繰り返しを確認して曲の構成を捉えた。判断が難しいと思われた曲の山場については「強く歌いたくなる場所はどこだろう。」と発問して考えさせた。児童は楽譜の構成、旋律の動きや歌詞から強く歌いたくなる場所を考え、最終的に、曲全体をどのように歌えばよいかを一人ひとりが考えることができた。児童の意見として、「花に向かって歌っているので、やさしく歌う。」や「花のことを思いながら歌う。」などの意見が出た。その後のリコーダーの旋律を吹く際にも、歌う時と同じように吹くことを意識することで「やさしく吹く」や、「音をつなげて吹く」ということに気を付けながら、思いや意図をもって演奏することができた。

エーデルワイス

① エーデルワイスはほのぼの
おこころをえはよいな
らうか。

ア 一だん目

山をいかに け	多か上・たり下・石り しと 15から	強く感じ
------------	-----------------------	------

イ 二だん目


か弱く	糸のつる	弱く感じ
-----	------	------

ウ 三だん目

山をいかに け	多か上・たり下・石り しと 15から	強く	強く	エリ上げたい
------------	-----------------------	----	----	--------

エ 四だん目

山をいかに け	多か上・たり下・石り しと 15から	強く
------------	-----------------------	----



手立て2

多様な表現を体験し音楽を表現する技能を身に付けるために、常時活動を取り入れる。

音楽の授業で必要な用語や、技能を身に付け、協働して音楽活動をする楽しさを感じることができるよう、授業導入時に音楽のドリルのような常時活動を取り入れた。月ごとにテーマを決め、毎回少しずつレベルアップしていった。

拍の流れ体験 「拍」の意味を確認し、メトロノームと一緒に一人ずつ順に一拍、手をたたき活動を行った。最初は速さが合わずにいた児童も、メトロノームの音をよく聞くよう声をかけたり、自分の番ではないときにも、体で拍をとっている児童を褒めたりすることで、他の児童も真似をするようになり、メトロノームに合うようになった。どうしても拍に合わない児童がいるときは、タイミングをはかって、次の児童が入ることで、音楽がつながっていくことを体験させた。次に拍とリズムの違いを知り、一定の拍が聞こえている中で、4分の4拍子の1小節を一人ずつ、即興的にリズムを考えて打楽器や手拍子で表す活動を行った。この際には、規定のリズムを一つ用意し、とっさに思いつかない児童にはそれを使ってもよいことを伝えた。また、規定のリズムも鳴らせずに困っている児童がいても、「4拍休み」と周りが受け取り、次の人が入ることができたら「つながった！」と褒めることで、後に行う合奏でも助け合って音楽をつなげる、ということにも活かされた。



ドラムサークル

打楽器で即興的に演奏する活動。リズムが思いつかない児童も拍に乗ってれば声や動きを入れてもよいこととし、みんなが参加できるようにした。一人が表現したものを全員で真似をして演奏することで、表現力だけでなく、聴く力も身に付き、お互いを受け入れる、認め合うことにもつながった。この活動は音楽づくりにも役立ち、ふだん使わないような楽器の使い方を児童がすることもあり、その場合は全体で共有した。〈音のスケッチ〉では、グループで様々な意見をお互いに出し合い、組み合わせを工夫して、一つの作品を作り上げることができた。



リコーダーを学び始めた月には、リコーダーを使った常時活動をしたり、学級の声量を増やしたいと考えた月には声を使った常時活動をしたりしている。様々な活動を取り入れることによって、多様な表現の仕方があることに気付き、授業の中での表現の工夫にもつなげることができる有効な手段だと実感している。

(2) 仮説2について

手立て1

自分の意見や思いを伝えられるように、学校生活全般において、自分で考える場を多くもつ。

何も考えていなければ、意見は言えず、思いがないと伝えられないだろうという考えから、他の教科や日常生活でも「考える」場面を意識的に多く取り入れた。

音楽科 リコーダーの練習曲「かえりみち」では模範のCDを聴いた後で、どのような感じがしたのかを考えた。「さみしい感じ」「夕方の感じ」という意見が出たので、どのように吹けば、この曲の様子に合うのかを再度全体で考えさせた。「弱く吹く」「やさしく吹く」という意見から、息の強さを意識してリコーダーを演奏した。

算数科 解答までたどり着けなくても、式や図から、自力で考えようとする姿勢を意識させた。答えが出せた児童には、他の児童に説明をさせる機会を多くもった。

その他の活動 授業中、発表する児童が固定されてきてしまうので、発表しない児童が黒板を書き写すだけになるのを防ぐために、くじ引きで指名することを多く取り入れた。指名されても答えられない児童には、そのことを言葉で伝えるようにした。係活動では、必要な係や人数を児童たちに考えさせたり、後期の係活動では、必要なものとそうでないものを考えたりした。日直もくじ引きで決め、いろいろな人と組み、その日の仕事の分担は二人で話して決めさせることとした。

手立て2

音楽の授業経験が浅い教員に、授業の手がかりになるような、様々な情報や方法を提示していく。

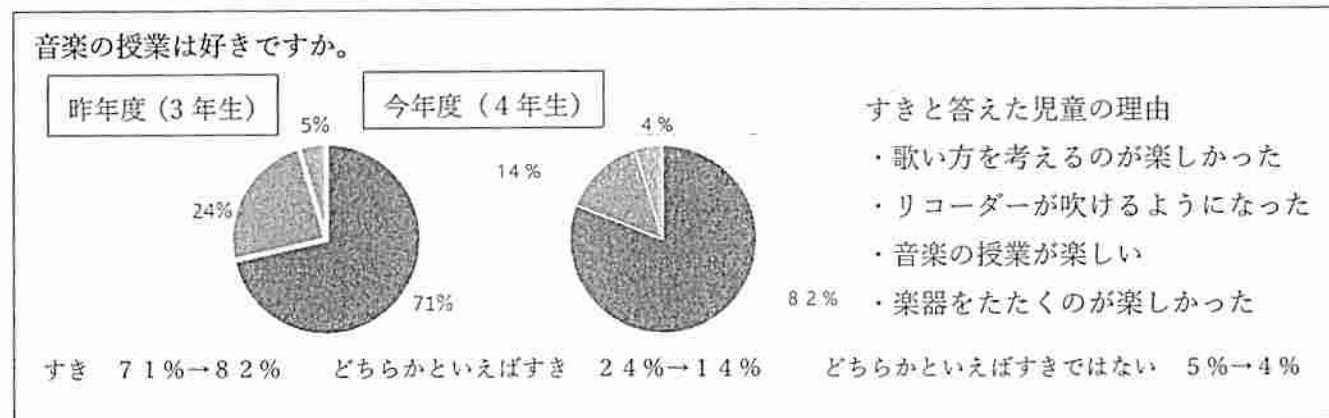
今月の歌 毎朝、放送で全校一斉に歌う「今月の歌」では、どのようなことに着目して歌えばよいかを音楽部から提案している。放送で流れる範唱と一緒に歌えるようにすることから始まり、手拍子や動作を加えたり、曲の様子や登場人物の気持ちを想像して歌う、など週ごとに深めていくようにし、朝の歌の前に毎日、放送委員が呼びかける活動を行っている。しかし、全校集会では歌詞が覚えられていないなどの点

から声が小さくなってしまいうこともあったため、今年度からは計画委員が、「今月の歌」の時間に、低学年と中学年のクラスを中心に「歌の応援」に行く活動も取り入れた。そのことによって、各教室から聞こえてくる歌声が以前に増して明るくなり、朝の歌に対する意識が学校全体で変わっていく様子が見られた。翌月の全校集会に全体で合わせることを毎月の目標にしているのも、全校集会での歌声にも、一カ月間楽しんで歌えたことがわかるような自信が感じられてきている。

音楽通信 本校では、担任が音楽の授業をしているので、本校で初めて音楽の授業をする教員に、何か困っていることはあるかと質問をすると「全部。導入からどうすればよいかわからない。」という意見や「音楽の授業は難しい。」という声をよく耳にした。そこで何か力になればと、音楽の授業のヒントやアイデアを伝えるために月に1度、校内の音楽部から「音楽通信」を紙面を出している。わかりやすく伝えることを考え、自分が音楽の研修を受けた時の内容の紹介や、授業の実践例、常時活動の紹介や各学年での〔共通事項〕のことにも触れてきた。他の教科と同じように、音楽の授業でも、学年ごとの積み重ねが必要である。中学校で学ぶ音楽に円滑に取り組めるよう「音楽通信」を用いて、継続的に音楽を楽しめる活動を伝えている。紙面では伝えきれない部分もあるため、今年度からは常時活動の様子や、教員が子どもの頃には経験してきていなかった音楽づくりのアイデアなどを、動画でも配信していきたい。



6 成果と課題



仮説1

- 児童が考えやすいように、より具体的な言葉を選び発問を工夫することで、児童が思いや意図を持ちやすくなり、曲の様子に合った表現に活かすことができた。
- 常時活動などで、様々な音楽的な体験をしたり、〔共通事項〕との関連を十分に図った授業を展開したりすることにより、音楽の様子を表す言葉などの語彙力が少しずつ高まってきている。
- 「強い音」と「高い音」や「ゆったりした感じ」と「ゆっくり」など、音楽の様子を表す言葉の混同が見られた。音の高さや強さを図で表したり、言葉の確認をしたりする場面を授業や音楽活動の中で多く取り扱っていく。

仮説2

- 他教科でも常に「考える」ことを意識させてきたことにより、考えたこと、思ったことを言葉で表すことができるようになりたいと、自ら思う児童が増えてきた。
- 目標をもち、曲の様子をイメージして歌うことを意識して朝の歌に取り組むことにより、声の大きさや児童の表情にも変化が見られた。全校集会での歌も自信を持って、歌うことを楽しむ様子が今までよりも多く見られるようになってきた。
- 「音楽通信」で、音楽の授業について発信してはいるが、担任の多忙な業務の中で負担をかけずに、すべての先生方にわかりやすく伝える方法を考えていく。

資料編

1 題材名 「曲に合った歌い方」(5時間)

教材名 表現(歌唱) 森の子もり歌 作詞 蓬萊泰三 作曲 菊池雅春 編曲 佐伯孝一

表現(歌唱) 雪のおどり 作詞 油井圭三 チェコ/スロバキア民謡

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A表現 (1)歌唱の事項 ア, イ, ウ

(2)器楽の事項 ア, イ, ウ

〔共通事項〕(1)ア, イ

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

フレーズ, 音色, 音の重なり

・取り扱う音符, 休符, 用語や記号

8分休符

(2)ア, イ

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

フレーズ, 音色, 音の重なり

・取り扱う音符, 休符, 用語や記号

4分休符

2 題材について

(1) 題材の目標

○曲想とフレーズなど、音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、楽器で副次的旋律を演奏する技能を身に付ける。(知識及び技能)

○音色、音楽の縦と横の関係、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことを感じ取ったこととの関りについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)

○曲想を生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、5音をもとにした旋律や輪唱に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材設定の理由

本題材では、旋律やフレーズの特徴から曲想を捉え、曲想に合った歌い方を工夫することをねらいとしている。「森の子もり歌」では、鳥の鳴き声を表したフレーズと、それを受けた様子を歌うなめらかなフレーズとの歌い分けを工夫させたり、中間部の歌い方について考え表現したりすることが出来るよう、個人で思いや意図をもたせ、また友達と言葉で伝え合いながら曲想に合った歌い方を工夫する活動を取り入れる。リコーダーの旋律と合わせることで副次的旋律の強さや音色を考えたり、音の重なりが生み出す良さを感じ取ったりしながら、音を合わせることの喜びや楽しさを

体験する。

「雪のおどり」では、「森の子もり歌」の学習を生かして「こんこん」の歌い方を工夫し、高音を美しく響かせる。ハーモニーを感じさせながら輪唱を楽しませたい。

(3) 児童の実態(男子13名 女子8名 計21名)

本学級の児童は元気で明るく、意欲的に音楽活動に取り組んでいる。朝の歌では体を動かして歌い、音楽の授業の中でも特に、楽器を使った授業では楽しそうに協働している姿が見られている。歌うことが好きな児童が多く、日常的にどの曲でも大きな声で楽しく歌うことが習慣になっている。3年生では「この山光る」では曲の変化に合わせた歌い方を意識して歌ってきた。「ふじ山」では歌詞と旋律の関わりから、曲の一番気持ちを込めて歌いたいところを考えてきた。リコーダーの「にじ色の風船」や「かえり道」では、伴奏や曲想に合わせた息の強さや音のつなげ方を学習してきた。しかし、元気に表現することには慣れていないが、「やさしく」表現するとなると音を弱くすることに留まってしまっている。本題材を通して、歌詞の内容を理解し、自分自身の思いや意図をもつことやフレーズを意識した歌唱を工夫、いろいろな歌い方を試しながら曲想に合った表現をすることの楽しさを体験させていく。また、内向的で声を出すことを苦手としている児童が数名いるので、記述でも相手に伝えるということを意識させて活動させる。

(4) 指導観

「森の子もり歌」は、ハ長調、2/4拍子、A(aa') - B(ba')の二部形式になっている。Aの部分では旋律が弱起になっており、8部休符が軽やかさを感じさせるのに対し、bの部分では順次進行によるなめらかな動きになっている。旋律の流れに合わせて手を動かし、Aの部分では休符を含めた旋律の動きや、Bでは次第に音が高くなっていくフレーズの動きなど、それぞれの部分の特徴をつかむ。歌詞の表す情景を想像し、思い浮かべたことを話し合わせることで、曲に対するイメージを深め、「ピラロ ルラ」の歌い方や「よふけの森にきこえる」の対照的な歌い方を工夫する。Bの部分では1番では夜、2番では朝のことを歌っているため、歌詞と旋律の関連を考え、どう歌いたいのか、そのためにはどのような表現をすれば良いのかを考えさせる。グループを作り、動画で自分たちの歌う姿を撮影し、確認させて、客観的に聞く活動も取り入れたい。声を出すことを苦手としている児童には負担にならないように、友達の声に合わせて頭を動かすなどでも良いことを伝え、安心して活動に参加できるようにする。リコーダーの旋律は主旋律ではないことに気づかせ、息の強さや音のバランスを工夫する。また、リコーダーの旋律が歌に合わさることによってどのような良さがあるのかを感じ取らせたい。

「雪のおどり」は、ニ短調、2/4拍子、ニホヘトイの5音からなる。2小節遅れで輪唱することにより、しんと降り積もる雪の様子を表現することができる。「森の子もり歌」で学んだ曲想に合った歌い方を工夫すると共に、ここでは雪、冬に対する季節感やイメージに合った音色の楽器を選び、伴奏を工夫させる。声の重なりや楽器の音の組み合わせの美しさを感じ取らせ、思いや意図をもって表現することの楽しさや大切さに気付かせていきたい。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関りに気付いている。(歌唱)</p> <p>②技思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、楽器で副次的旋律を演奏する技能を身に付けている。 (歌唱・器楽)</p>	<p>思①フレーズ、音色、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間について考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (歌唱)</p> <p>思②フレーズ、音色、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間について考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>態①曲想を生かして表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 (歌唱・器楽)</p>

4 指導と評価の計画 (5時間扱い) (本時3/5時間)

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆ [音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)]	○教師の発問や働きかけ ・目指す児童の姿	評価の観点 <評価方法>			
				知・技	思	態	
第一次		◎「森のこもり歌」の曲想を感じ取り、旋律の特徴を捉えて歌う。					
	第1時	<p>○「森のこもり歌」の範唱を聴きながら、歌詞で歌う。</p> <p>○旋律の特徴を捉える。</p> <p>・手を動かして歌い、旋律の流れや特徴に気づく。</p> <p>・気づいたことをワークシートに記入していく。</p>	<p>○音の高さや休符を捉え、旋律の流れがどのようになっているのかに気づかせる。</p> <p>・休符があるところとないところがある。</p> <p>・音が上がったたり下がったりしている。</p>				

			・繰り返しがあがる。			
第2時	○歌詞の違いを理解する。 ○リコーダーの旋律を練習する。 ☆【フレーズ 音色 休符】	○1番と2番では時間や、歌を歌っている鳥が違うことに気付かせる。 ○始めの休符に注意させ、フレーズを感じながら吹く。		①知 ↓ （記述・発言・観察）		
第3時 （本時）	○歌詞の表す情景を想像し、歌詞や旋律のまとまりに合う歌い方を考える。 ・鳥の鳴き声の部分とその後の滑らかな部分の歌い方を工夫する。 ・思いついたことをワークシートの楽譜に書き込む。 ・書いたものを実際に声に出して試してみる。	○曲想に合う歌い方をワークシートに書かせ、グループで伝え合わせる。 ・子守歌だからやさしく歌いたい。 ・2番は朝だから明るい声で歌いたい。 ・bの音が上がってくるところは、盛り上げて歌いたい。		思① ↓ （記述・発言）		
第4時	○歌とリコーダーの演奏を合わせて、そのよさを感じ取る。 ・音のバランスを考える。 ・音が重なる良さを話し合う。 ☆【フレーズ 音の重なり】	○音のバランスを考えさせる。 ○お互いの音を聞きながら歌ったり演奏したりできるようにする。 ・歌の方が主役だから、リコーダーの音は大きすぎない方がよい。		②知 ↓ （記述・発言・観察）		
◎「雪のおどり」の輪唱を楽しみながら音の重なりを味わう。						
第二次	第5時	○「雪のおどり」の曲の流れを知る。 ・範唱を聴き、歌を覚える。 ・手を動かして歌い、旋律の動きを知る。	・音が上がったり下がったりしているところと、なめらかなところがある。			

	<p>○旋律や歌詞に合った歌い方を考える。</p> <p>○輪唱を楽しむ。</p> <p>○輪唱に伴奏を加えて、音の重なりを楽しむ。</p>	<p>・音が上がったり下がったりしているところと、なめらかなところがある。</p> <p>○擬音とそうでないところの歌い方を考えさせる。</p> <p>○お互いの声の重なりを聴かせる。</p> <p>○教科書通りに出来た児童には、リズムや旋律を工夫させる。</p>	<p>↓</p> <p>思② (記述・発言)</p>	<p>↓</p> <p>態① (観察・記述・聴取)</p>
--	--	--	--------------------------------	-----------------------------------


5 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

曲の情景をイメージして、ふさわしい歌い方を考えて歌う。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形作っている要素 (音符、休符、記号や用語等)〕	○教師の働きかけ ・目指す(予想される)児童の姿(記述・工夫・発言例)	評価の場面 (評価方法)		
			知・技	思	態
2	○前時を振り返り、旋律の動きを感じながら「森の子もり歌」を歌う。	○前時の学習を想起しやすくする。			
1	○本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">どのように歌えば、曲の様子に合うのだろうか。</div>				
5	○鳴き声の部分をどのように歌いたいかを全体で考える。 ・声に出して歌って試してみる。	○旋律の動きと歌詞を合わせて考えられるようにする。 ・子守歌だからやさしく歌いたい。 ・2番は朝の歌だから明るい声で歌いたい。(発言)			
2	○歌の情景を確認し、工夫する場所を確認する。	○歌詞に合う歌い方を考えられるように、1番と2番の違いを確認する。 ・歌詞で「おはよう」と「おやすみ」と言っている部分。(発言)			

<p>5</p> <p>15</p> <p>10</p> <p>3</p> <p>2</p>	<p>○bの部分をどのように歌うのかを個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入していく。 ・歌って試してみる。 <p>☆【フレーズ 音色】</p> <p>○グループごとに、考えた歌い方をどのように表現するのかを話し合い、練習をする。</p> <p>○お互いに工夫したところを伝え合い、歌を聴き合う。</p> <p>○まとめを書く。</p> <p>○全体で気持ちを込めて歌う。</p>	<p>○図で表したり、動作を付けたりしても良いことを伝える。</p> <p>○思いつかない児童には、「子守歌」や「朝の歌」のイメージから考えるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番はやさしく歌いたい。そのためには盛り上がりを意識しながらも、少し弱い声で歌いたい。 ・2番は明るい声で歌いたい。 <p>(記述)</p> <p>○いろいろな意見がある場合は、歌って試してみることを伝える。</p> <p>○歌いやすい雰囲気を作るために、歌う人数や伴奏の音量に気をつける。</p> <p>○児童が自分で考えやすいように、キーワードを書きおいたボードを示す。</p>	 <p>思 ① 〈記述・発言〉</p>
--	--	--	--

(3) 板書計画

◎どのように歌えば、曲の様子に合うのだろうか。

拡大譜

(4) 本時の評価

<p>「十分満足できる」状況(A)と判断される例</p>	<p>歌詞や旋律の流れを捉え、曲想に合った表現を考え、そのためにはどのような歌い方をしたら良いのか、積極的に歌って試している。</p>
<p>「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童への働きかけの例</p>	<p>前時に学習した旋律の特徴や歌詞の違いから、ヒントの言葉を当てはめさせる。</p>


1番をどのように歌えばよいか考えました。

森の子もり歌


名前

音が切れている

a 
 1番 ピラ ロ ル ラ ビラ ロ ル ラ

 小さい声夜なのでやさしく音をやさしく切る

2番 ピラ || ル ラ ビラ || ル ラ


 音がつながっている


1番 
 の も り に き こ え る ビラ

2番 
 の も り に き こ え る ビラ

a 
 1番 ロ ル ラ あ の う た は

2番 ロ ル ラ あ の う た は

1番 
 の の

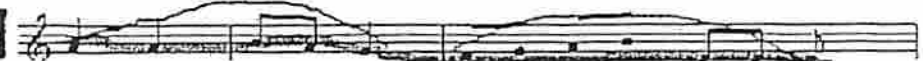
2番 
 の の

音が下がっている

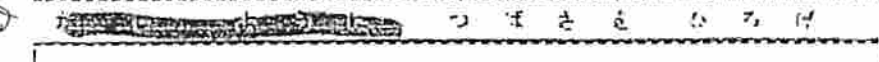
終わる感じ

3つの山がある

もり上がるところ

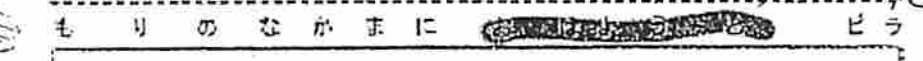

b 
 1番 ひ が た ら そ つ ば さ に だ い て

山をいしきてやさしくもり上げる

2番 
 つ ま さ ら な り げ



 1番  ピラ

もり上がるけどおやすみだからやさしく一度も眠る感じ

2番 
 も り の な が ま に  ピラ

a 
 1番 ロ ル ラ う た 一 つ て る

2番 ロ ル ラ う た 一 つ て る

1番 
 の の

2番 
 の の

終わる感じ

森の子もり歌

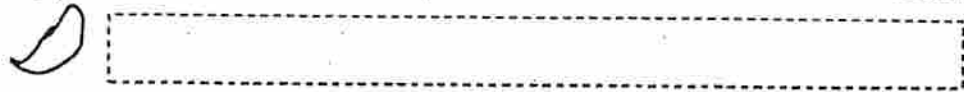
2番をどのように歌えばよいか考えました。

名前

音が切れている

a

1番 ピラロ ルラ ピラロ ルラ



2番 ピラロ ルラ ピラロ ルラ

音がつながっている

1番 の も り に き こ え る ビラ

2番 の も り に き こ え る ビラ

一日のはじまり、元気に 明るい声

1番 の も り に き こ え る ビラ

2番 の も り に き こ え る ビラ

a

1番 ロ ルラ あのう たは

2番 ロ ルラ あのう たは

1番 の の

2番 の の

1番 の の

2番 の の

音が下がっている

終わる感じ

3つの山がある

もり上がるところ

b

1番 ひがたを つばさに だいて

つばさも かるげ

たんだんもり上げる

1番 ビラ

2番 もりの なかまに ビラ

朝だから、みんなをおこすため 大きな声

a

1番 ロ ルラ うた ー てる

2番 ロ ルラ うた ー てる

1番 の の

2番 の の

1番 の の

2番 の の

終わる感じ

森の子もり歌 まとめ その1

11月24日

① せりふはよいよと動いているたずなが。

感じたこと

② せりふはよいよと動いているとよと下かたてい
るよとかがあるんだな、と思いました。 ♪

③ 目を動かしているよとよとながっているよとかが来た。

11月28日

④ 1番と2番ではどのよとよとちがいが来るのか。

感じたこと 夜

⑤ 1番の夜の感じと2番の朝の感じだったが、せりふは同じだった。 ♪

⑥ 1番は夜に母と鳥が子守歌を歌っていて、2番は朝にちび鳥が朝の歌を歌っている。

森の子もり歌 まとめ その2

月 日

④ どのように歌えば曲の本様子に合うのだろうか。

感じたこと

夜はもり上がりをはしきするのがむずかしかったです

⑤ 一番はやさしくなめらかにゆったりと。
二番は元気に楽しくリズムにのって。

月 日

⑥ リコーダーのせんりつが合おえるよさはなんだろうか。

感じたこと

リコーダーと声がいっしょに聞けるのがキレイに感じました

⑦ リコーダーと歌が同時 → 合かっている
歌がよってきたっている

1年間ありがとうございました！

本年度も今月で最後ですね。昨年度に引き続き、音楽の学習に制限があり、やりづらさを感じたこともあったと思います。しかし、そのような中でも、どうにか楽しい音楽をしようと工夫してきました。今後このような状況が続くかもしれませんが、子ども達ももっと音楽を好きになって学習に取り組めるようにしていきたいですね。

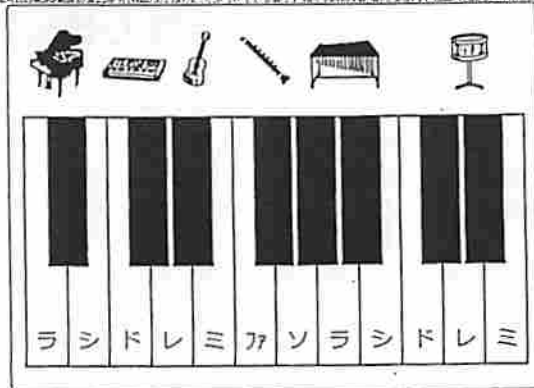
ICTを活用した音楽



ICT支援員の北村さんが作成してくださった、クロームブックを用いての音楽アプリを紹介しま

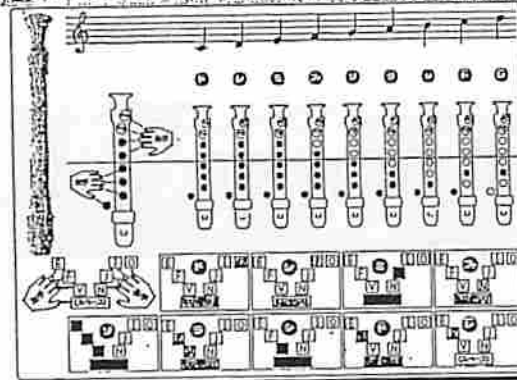
①ピアノの鍵盤

<https://scratch.mit.edu/projects/638905275/fullscreen/>



子ども達はタッチパネルになっているので、ピアノがなくても練習することができます。上の楽器のイラストを押すと、音色も変えることができます。鍵盤にドレミ…と音階が書かれているのでわかりやすいですね。ただし、同時に違う音を鳴らすことはできません。和音の練習には向いていません。

<https://scratch.mit.edu/projects/638848999/fullscreen/>

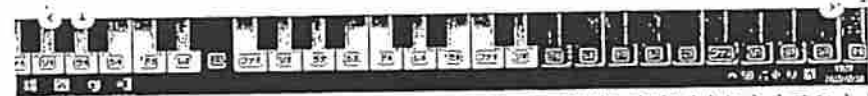


リコーダーの指使いの練習に使うことができます。下に書かれているキーを押すと、音が鳴ります。指の使い方とその音の確認ができます。

④その他 「flat (フラット)」



音楽



ネット上でダウンロードし、使うことができます。簡単に音楽づくりをすることができます。五線譜のところや、下の鍵盤のところを押すと、音が作られます。音の長さや強弱、音色等も変えることができます。子ども達が演奏の練習をする際に、正しい音を確認する時にも使うことができそうです。

このように、ICTを状況に応じて使うことで、より音楽に親しむことができます。ぜひ、試して使ってみてください。

新緑の季節になりました！

連休の緩さから一転、一気に押し寄せてきた仕事と行事の準備に追われていますが、音楽室からは元気な「こいぬのピンゴ」や、きれいで落ち着いた「翼をください」の歌声が聞こえてきました。

今年度からは、計画委員会からも朝の歌を盛り上げていきたいと思っています。そして、前回では、自分たちが受けてきた音楽の授業と、今の音楽の授業の違いを載せさせていただきましたが、どの学年の子どもたちも、卒業する時に気持ちよく、思いをこめて歌えるように、ぜひ授業で取り入れていただきたいことをお願いします。



教科書の楽譜の活用

ちょうど、去年の5月号にも載せていたことに驚きましたが、歌唱の授業では、繰り返しがあはることは、範唱を聴いてもわかりますが、歌詞を見ることで視覚的にも確認することができます。また、楽譜からは「1段目と2段目はリズムも旋律も同じなんだな。」というようなことがわかります。その他にも「ここはだんだん音が高くなっているから、盛り上がってくるんだな。」など、楽譜からわかることがたくさんあります。

ある年、1年生の終わりの音楽の授業では、「この歌は、歌う時にちょっと難しいところがあるんだけど、どこかわかる？」と聞くと、楽譜を熱心に見ていた子が「ここだ！」と言い当てました。なぜその場所だと思ったのかと尋ねると、「音が急に飛んでいるから。」という見事な回答。これは楽譜からの大発見でした。

楽譜の活用の例

- ・歌唱曲との出会いの時に、CDを聴きながら、今どこを歌っているのか音符を指で追う。
 - ・休符の多い曲では、休符の時に手をたたいてみる。
 - ・同じところ（リズム・旋律）を見つける。
 - ・曲の一番盛り上がる場所（気持ちを込めて歌いたいところ）を考える。そこから、どのように歌えばよいのかを考えることができます。
- 全部の曲ではなく、共通教材だけでも良いので、やってみてください。



裏に続きます

今月の歌で出来ること

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

5月の今月の歌は「気球にのってどこまでも」です。

自分たちの頃は定番だったこの曲も、今の高学年の子は聞いたことがなかったようです。この曲がよく歌われていた理由には、大空をイメージしたのびのびとした曲調と、一番のサビの部分の手拍子にあります。

16日（火）からは計画委員会が、1年生から4年生までの各教室に行きますが、行けるのはそれぞれの教室に1人か2人...。手拍子のリズムもあやしいので、盛り上げられるか心配ですが、担任の先生方のご協力もよろしくお願いいたします。

黒板掲示、あります

「音楽を形づくっている要素」のカードは、たくさん貼っておいて、この曲ではどれ？と考えさせて選ばせることが出来ます。音楽づくりでも、取り入れてほしいカードを表示することができます。「音符の長さ」のカードは1年生用につくったものですがぜひ活用してみてください。音楽室の黒板の右側にあります。

